

寄稿

新旧の観光資源を 掛け合わせたまちづくり —観光地域商社 株式会社karchの取組—



板橋 正智 (いたばし まさとし)
株式会社karch地域戦略部 部長

1984年栃木県生まれ。転職を機に北海道上士幌町に移住。十勝・上士幌町の観光地域商社(株)karchにてDMO推進を担当。

1 はじめに

2018年5月に上士幌町の観光地域商社として設立された「株式会社karch（カーチ）以下、karch」は設立当初より、「地域が稼ぐ仕掛けづくりを行う課題解決型の地域商社」として事業を開始しました。上士幌町ほか、複数の民間事業者・地域金融機関・地域メディアの官民共同出資による第三セクターでありながら、株式会社形態で設立、新旧の観光資源を事業に落とし込み、マネタイズ（収益化）させることで上士幌町の観光地域造成に寄与しています。設立時より、上士幌町における観光地域づくりのハブ（中核）を目指し、観光地域づくり法人（以下、DMO）への申請準備を進め、2019年8月に「DMO候補法人」に登録後、2022年3月に「登録観光地域づくり法人（登録DMO）」として観光庁より認可を受け、新たな観光地域づくりの起点と成るべく邁進しています。

2021年度に上士幌町の関係者団体や有識者との協議を重ね、観光地域づくりにおける合意形成を図る協議会「上士幌町観光地域づくりネットワーク協議会（以下、KAMISHIHORO.net）」を設立、karchを協議会事務局とし、翌2022年度に実働開始しました。KAMISHIHORO.net設立に伴い、2022年度以降は事業者連携・官民連携をより強固なものとし、上士幌町内の関係者団体全体で持続可能な観光地域づくりを実現すべく、KAMISHIHORO.netを起点とした施策協議やイベント開催、先進地視察、マーケティング調査等を継続的に実施しています。また、登録DMOとしてのミッション遂行と併せてkarchは地域商社として観光に纏わるあらゆる課題解決を図りながら、①施設運営事業、②商品開発事業、③電気小売事業、④イベント運営企画事業などの各種事業を広く展開しています。

2 実施事業 概略

上士幌町は、人口約4,800人・2,500世帯の町ですが、2019年度のナイトイテラス開業、及び2020年度の道の駅開業により、2016年度時点で36万人の観光入込客数が65万人まで増加し、現在も年間を通して同水準の観光客が訪れています。また、町内市街地において、宿

泊施設やワーケーション施設、企業型滞在施設がオープンし、滞在型観光におけるハード面の構築・DX化が進んでいます。観光客の動向面においては、十勝総合振興局全体と比較し、道外からの観光客がやや多い一方、宿泊客がやや少ない傾向がありマイクロツーリズムに則した施策展開や観光消費額の底上げを図るべく事業セクションにて各施策を推進しています。

① 施設運営事業

指定管理者として「ナイトイテラス」及び「道の駅かみしほろ」の施設運営を行っています。ナイトイテラスは公共牧場として日本一の面積（1,700ヘクタール）を誇るナイト高原牧場の山頂に所在するカフェレストランです。2019年、既存レストハウスの建て替えに伴い建造され、冬期を除く4月下旬～10月末まで無休で営業しています。標高800mから十勝平野を一望できる大パノラマは十勝随一の景勝地としてワン



ナイトイテラス（内観）

シーズン12万人超の観光入込があり、館内正面は全面ガラス窓で構成されており、「ロケーションが主役」というテーマのもと、展望機能としての側面も兼ね備えた複合施設です。

道の駅かみしほろは2020年6月に北海道内127番目の道の駅として開業した上士幌町のゲートウェイ施設です。「旅の目的地になる道の駅」をスローガンに、地場産品を扱う洋食レストラン、町内特産品からアウトドアギア（アウトドア用品）まで幅広いラインナップで設えたショップ、町内の人気ベーカリーやハンバーガーショップ、スイーツショップ等、休憩所・観光案内所の枠を超えた上士幌町の新たなランドマークとして運営しています。年間50万人を超える集客を生み出しており、2022年7月に100万人目の来館を迎えました。



道の駅かみしほろ（外観）

② 商品開発事業

1) プライベートブランド開発事業

上士幌町は十勝に広がる雄大な自然の恩恵を受け、畑作・酪農が盛んな地域であり総人口の約16%が農業従事者です。豊富な農畜産物を広く周知し、消費に繋げるため、あるいは農畜産物を契機に関係人口増を図るため、karchは自社プライベートブランド（以下、PB）として現在までに約30品の加工品・土産品を造成しました。運営施設での販売の他、十勝管内・管外への卸販売にも注力し、2023年度は55社の得意先にPBを採用いただいています。今後の展望として、町内で加工・製造までを行い、メーカーとしてPBに係る工程の内製化を検討しています。

2) 体験商品開発事業

A. ナイトイテラス宿泊パッケージ造成

上述のような、「モノ消費」に繋がる開発の他、「コト消費」増に向けた商品造成も行っています。上士幌町は黎明期より、上士幌町航空公園や国設ぬかびら野営場をはじめとしたキャンプ場運営のほか、各地域資源が持つ圧倒的なロケーション力で多くのアウトドアユーザーの誘客に成功しています。道の駅かみしほろにて近郊のアウトドアショップと連携し、アウトドア・キャンパー向けのグッズコーナーを展開、道の駅を起点とした周遊動線を作りました。一方、ナイトイテラスは、2021年度はシーズン（4月下旬～10月末）あたり10万人の来館に対し、2022年度は12万人の入込を記録していますが、施設での消費動向はその100%が飲食物、特産品を中心とした土産品であり、「モノ」に対する消費です。ロケーション価値の最大化を図るため、広大な敷地を舞台とした体験商品造成を推進しています。造成事業に伴い、当該エリアを活用し、平時は閉鎖されている夜及び早朝のナイト高原牧場を占有できる宿泊体験プランの実証実験（以下、本実証）を実施しました。実証点は、①夜間から早朝にかけての体感温度、②害虫・害獣の対応、③悪天候時の懸念点の洗い出し、④その他の4点を軸に執り行いました。karchから3名の他、キャンプに知見ある町民、観光アドバイザーにも協力を募り複数日にかけて招聘し、テント宿泊並びにトレーラーハウス宿泊の両軸から本

実証を実施しました。実証から得た意見・懸念を集約、「1,700ヘクタールの大自然を満喫する非日常体験」を付加価値とし、占有的なキャンプ空間の実売に向け準備を進めております。快適性を求めた商品ではなく、本来は立ち入ることのできない閉ざされた空間で自由度の高い宿泊体験を提供するものです。「占有」の価値を全面に出し、1日の最大予約数は1組から2組に限定します。

B.社内ガイドを活用したワカサギ釣りツアー造成

冬期の誘客施策は上士幌町の観光地域づくりにおいて重要かつ喫緊の課題であります。昨今のタウシュベツ川橋梁に係るコンテンツの需要高騰により、糠平湖まわりのアウトドアアクティビティは近年一定の誘客実績を記録しています。特に糠平湖の湖上ワカサギ釣りは道内のマイクロツーリズムのコンテンツとして例年賑わいをみせており、今後も持続可能性を持ったアクティビティとして高い需要が続くものと考えています。他方、釣魚料以外の消費拡大が課題のひとつであり、今年度は既存コンテンツの磨き上げの一手として、利用者に持参物を求めない「手ぶらワカサギ釣りツアー」を商品造成し、実売展開しました。糠平湖のワカサギ釣りは最寄り駐車場である五の沢駐車場から1km程度の雪道を、釣り道具やテントをソリに積載し徒歩移動しなければならず、ライトユーザーや初心者には敷居が高いアクティビティです。本商品は、ワカサギ釣りに係るあらゆる装備(テント・釣り道具・餌・暖房器具)を設え、ガイドツアーを造成したものです。釣り用テントの他、自由に休憩ができるカフェテントや専用のトイレテントを設置しました。ツアー終盤には昼食としてワカサギを挟んだホットサンドを調理し提供。徒歩移動含めて4時間のツアー中は上士幌町や糠平湖の歴史を交えながらツアーの付加価値、利用者の満足度向上に努めました。

C.ドローンを活用した体験コンテンツ造成

上士幌町は「熱気球のまち」として知られており、北海道バルーンフェスティバルをはじめとした熱気球に係るコンテンツが、観光消費に大きく寄与しています。これまでの熱気球による観光地域づくりは引き続き継続しながら、熱気球と同様の「空」をテーマとし

たコンテンツとして「ドローン」を活用した地域づくりを関係者団体と連携して推進しています。ドローンコンテンツを活用した誘客取組は先進性と訴求力があり、アイデアの具体化・実売化を目指したコンテンツ構築を行い、ガイドによる「ドローン操縦アクティビティ」を造成、実売しました。2023年3月に開催されたドローンショー(春のドローンショー2023 in上士幌)でのアウトドア体験商品のひとつとして体験商品を販売しました。同体験は、①ドローンの仕組みや注意事項の説明、②ガイドによるデモ飛行、③利用者による操縦体験・空撮体験の3工程を15分間で実施するものです。安全性担保のため、利用者が操縦するドローンは高度規制を設定し、30m未満の高度のなかで飛行体験を行い、利用者の満足度をヒアリングにて抽出しました。関係者含め14組が体験を利用、利用者によっては空撮も体験いただきました。体験した利用者からは、「なかなか体験できる機会がないので楽しかった」や「写真撮影が無くても飛ばしているだけでも満足できる」との声をいただき、バッテリーが無くなる直前まで飛行体験を楽しんでいただいた利用者も多数散見しました。今後も全年齢型のアクティビティとして将来性が高いものと考えています。今後は、道の駅かみしほろやナイトテラス、各地域資源を掛け合わせ、通年実施可能なドローン操縦体験を造成していきます。

karchは旅行代理業として、町内観光施設や各種スポットと連携したツアー等の旅行商品もつくっています。十勝管内の旅行は自家用車やレンタカーでの移動が多数を占めており、十勝管内の各全域と連携した自由度の高いツアーが求められています。

② 電気小売事業

上士幌町では、酪農・畜産業の規模拡大や生乳生産量増大に向けて、農業関係者が一丸となり、将来を見据えたふん尿処理対策を検討してきました。現在ではふん尿を資源と捉え、地域における資源循環・エネルギーの地産地消を目指しバイオガスプラントによる発電を行っています。発電した電気の一部を活用し、karchが運営する「かみしほろ電力」にて各需要家へ電気小売を行っています。当該事業は、需要家の生活

や事業に係るインフラ事業であり、従業員研修や関係者団体の連携を徹底し、専門セクションとして事業拡大にあたっています。

③ イベント運営企画事業

道の駅かみしほろの入込数がシーズンに左右されず、安定した誘客・消費・周遊に繋げていくことは特に北海道内の道の駅をはじめとした観光施設において大きなテーマと考えています。上士幌町は夏季の誘客は十勝管内全域においても一定の観光入込実績がありますが、冬期の誘客施策は依然課題があります。当該事業を用いて能動的、計画的に観光消費額を増加させていく、という狙いがあります。また、町内外の各所でもドローンイベントをはじめとした多岐にわたるイベントコンテンツを造成しています。2021年に道の駅かみしほろにて開催された「クリスマスドローンショー（主催：カミシホロホテル）」は9日間の開催において1万3千人の来場者があり、北海道内初となる300機のドローンが夜空を彩る姿は多くの来場者を魅了しました。今年度は2回目となるドローンショー「春のドローンショー2023 in上士幌」を開催しました。前回実施時は道の駅かみしほろ屋内外を活用したイベントでしたが、本件会場は上士幌町航空公園としました。ドローンショーは6分間の短時間イベントかつ、ショーの性質上夜間に開催しなければなりません。誘客促進のため、デイトタイムに同時開催イベントを造成し、ドローンショーのコンテンツの磨き上げを行ったものです。当該イベント「カミシホロデイキャンプマーケット」は食とアウトドアをテーマとした体験型・滞在型のイベントコンテンツとして、①デイキャンプが楽しめるエリア、②町内事業者・十勝管内事業者を中心とした飲食ブース、③火起こし体験・薪割り体験・

ドローン操縦体験等の体験ブースを総合的に設え、町民をはじめ道内全域からアウトドアユーザーを中心とした誘客を促進しました。上士幌町全体が「旅の目的地」に選ばれるよう、新鮮でインパクトのあるコンテンツを提供するべく、事業にあたっています。

3 おわりに

karchは「既存の地域資源」と「新しい観光資源」の各資源を、どう磨き上げられるか、あるいはどう掛け合わせられるか、というテーマを持ち、業務を遂行しています。上士幌町の観光地域づくりにおいて、観光消費額拡大は最も重要なミッションのひとつとして、設立時より達成に向け邁進してきたところですが、ミッション達成に向けた具体策を「体験消費」や「グリーンシーズンに依存しない誘客」、「DXによる商品造成」等の観点から関係者団体含め協議の上、推進しています。消費行動に纏わるミッションは国内登録DMOの根幹的な目的のひとつではありますが、景勝地やロケーションが来訪目的となりやすい上士幌町においても喫緊の課題です。ナイトイテラス、道の駅かみしほろの誕生により、本町観光入込数は年間60万人を超えています。前述の通り、過半数の消費行動は土産品や食などの「モノ消費」に留まっている状況です。娯楽性や体験性、ストーリーへ「コト消費」を生み出していくことが近年最大のミッションであると捉え、引き続き本町の圧倒的なロケーションを付加価値とした、「雄大な自然環境」と「先進性」のコントラストある商品内容を構築し、ストーリーに裏打ちされたキラコンテツを作っていきます。また、「住んで良し・訪れて良し」の観光地域づくりを実現する上でSDGsに基づいたサステナブルなスキームは登録DMOのすべての行動指標に密接に関わります。かみしほろ電力をはじめとした循環型エネルギーの展開、物流や観光に係るシステムのDX化、フードロスを念頭に置いた町内産特産品の開発等、本町民の暮らしに直結する施策を地域全体で推進し、「住んで良し」の上士幌町を実現します。DMO・観光地域商社として町民、観光客を一体として捉え、引き続き課題解決に邁進していきます。



かみしほろ電力 スキーム図